

カジカガエル (学名: *Buergeria buergeri*)

[アオガエル科 カジカガエル属]



夏、川から「ルルルルルル フィフィフィ」という涼しげな音色が聞こえてきます。これはカジカガエルの鳴き声です。カジカガエルは昔から美しい声で知られており、「河鹿」として夏の季語にもなっています。魚のカジカとは関係がないそうです。

カジカガエルは、本州、四国、九州に分布しており、オスの体長が4.5cm、メスはオスよりずいぶん大きく8cmほどにもなります。周囲の環境によって色が変わりますが、全体に灰白色から黒褐色で、脚に太い黒縞があり、頭部から背に赤味が入る場合がありますが、石のよう

な色合いをしているため見つけるのは困難です。トノサマガエルやアマガエルと比べると平たい体型で、指に吸盤が発達しており(写真右上枠内)、岩などにしっかりと貼り付くことができます。

只見町では、只見川や伊南川、それらの支流である叶津川や蒲生川、布沢川など広く分布しています。6月から8月に繁殖期を迎え、町内のあちこちでこのカエルの美しい鳴き声を聞くことができます。岩や石の下の砂利に産卵し、オタマジャクシは8月頃に変態して上陸します。繁殖期以外は、川沿いの丘陵地から山地で暮らしており、森林の中で見つけることもあります。

〈企画展示〉

「絶滅危惧種 ヒメサユリのすべて」

6月30日(月)まで開催

ブナセンター講座

6月21日(土) 午後1時30分～午後3時

「只見地域のヒメサユリの分布と生態」

講師:大曾根陽子さん(首都大学東京・客員研究員)

〈自然観察会〉

6月22日(日)午前10時～12時(集合9時30分)

「開花中のヒメサユリの自生地を訪ねる」場所:只見町塩沢地区(予定)

※観察会は予約が必要です。お申込み・問い合わせはブナセンターまで 0241-72-8355

※この広報紙は再生紙を使用しています



※環境にやさしい大豆油インキを使用しています

珍しい桜が 咲きました!!

一見すると良く分からないかもしれませんが、実はこの桜、一本の木から2種類の桜の花が咲いています。この桜は黒谷の八久保基さん宅の桜で、2種類の桜が咲く理由は接ぎ木をしているからです。お話を伺ったところ、接ぎ木をして100年くらいは経っているのではないかと、同じ時期に花が綺麗に咲くのは珍しいそうです。

